

第 1 回

わが社の防火

株式会社 近畿車輛

日頃より、地域の皆様方には格別のご高配を賜り、感謝申し上げます。また、西防火協力会におかれましては、常日頃からご指導・ご鞭撻をいただき、改めてお礼申し上げます。

さて、今回「わが社の防火」ということで、地域の皆様ならびに会員の方々に、貴重な紙面をお借りしまして、まずは当社を紹介させていただき、僭越ではございますが当社の防火に関する取り組みを少し紹介させていただきます。

会社紹介

当社は、今年2020年12月に創業100周年を迎えます。

1920年に尼崎の地にて「田中車輛工場」として創業し、1924年には京橋に移転して各種鉄道車両の製作に従事しました。その後、1938年に現在の地である東大阪の徳庵に工場を移し、1945年には近畿車輛株式会社にとなり、現在に至っております。

この徳庵工場は、敷地面積は甲子園球場の約4倍の174,000平方メートルあり、従業員は約1,000名にて、国内

向けに新幹線をはじめ、各社向けの特急電車・通勤電車・地下鉄電車を製造するのみならず、北米・中近東そしてアジア地域に各種メトロ向け車両やライトレール車両を送り出してきました。

昨年の実績では、この徳庵工場で約400両の電車を製造し、代表的なものとして、近くでは大阪環状線向け電車、オリンピック開催の東京へは地下鉄日比谷線向け電車、そして海外へは2022年にワールドカップサッカーが開催される中東カタール国のドーハメトロ用電車を送り出しました。

これからは新たな100年を目指して、この東大阪にて、日本国内そして海外へ向け、熱意と誠意を持って、高い技術力と確かな品質で、地球環境にも優しく、そして皆様に快適な移動空間を提供する鉄道車両造りを通じて、社会貢献を果たして参ります。

当社での取り組み

火災を出さない、そして万が一の火災に備えた防火体制を日頃から整えておくことは、事業の継続において大

変重要な課題です。当社においても、車両の製造において塗料・接着剤あるいは高圧ガスといった危険物を扱いますので、その災害防止達成のために防火協力会の部会である危険物安全部会にも所属させていただき、その成果等も踏まえ、当社では環境マネージメントシステム(ISO14001)を適応の上で、マニュアルにし、危険物による災害防止に努めております。

当社の最近の代表製品例



2020年3月から営業開始した
近鉄特急 ひのとり



ロサンゼルス市内を走る
ライトレール車両

一方、防火については、自衛消防隊を組織しておりますので、その習熟ならびに技能向上のために西自衛消防隊連合会にも所属させていただいております。幸い、自衛消防隊が実際に活動したことはありませんが、毎年3月の火災予防運動期間中に火災を想定した全社防災訓練を、そして11月には津波防災の日の緊急地震速報を利用した全社防災訓練を実施し、その際に自衛消防隊の放水訓練等を定期的に実施しています。加えて、年1回の消防操法競技大会への出場を通じて、技能向上を図ると共に、新入社員の消防訓練の場にも活用させていただき、防火体制の維持向上を常日頃より図っております。

しかしながら、最近の自然災害の甚大化に伴い、現状の体制だけでは十分とは言えなくなりました。次の100年を目指し、BCP(事業継続計画)の策定、更にはリスクマネージメントの国際規格であるISO31000への適合等を視野に、微力ではありますが、更なる東大阪市西消防署管内の火災予防の徹底強化、そして地域社会の防災の役に立てればと考えております。